

令和4年度 長崎県学力調査結果の概要

<速報版>

I 調査の概要

1 調査目的

本県独自の学力調査を実施することにより、児童生徒の学力の定着状況を把握・分析し、各学校における児童生徒への教育指導の充実や改善等に役立てるとともに、県及び市町の教育施策の成果と課題を検証して学力向上対策の一層の充実を図る。

2 調査実施期間・調査内容

○令和4年4月19日(火)、20日(水)

- ・小学校調査(国語・算数：第5学年：40分)
- ・中学校調査(国語・数学：第2学年：45分)
(英語 : 第3学年：45分)

3 調査実施校数及び児童・生徒数

(1) 調査実施校数 476校

(2) 調査実施児童・生徒数

小学校第5学年	10,917人
中学校第2学年	10,381人
中学校第3学年	10,111人

Ⅱ 結果の概要

1 出題の考え方

- 学習指導要領が目指す学力像を示し、授業で身に付けさせたい資質・能力に視点をあてたもの。
- 学習指導要領が求める基礎的・基本的な知識及び技能、思考力・判断力・表現力等を問うもの。
- 学習指導要領の内容の定着状況を把握するとともに、過年度の課題を検証する。
- 各教科の平均正答率の目標値（以下「目標値」とする）を60%とする。

2 県全体の平均正答率（%）

	小学校		中学校		
	第5学年		第2学年		第3学年
	国語	算数	国語	数学	英語
令和4年度	64.6	60.9	54.3	55.8	54.5
令和3年度	60.0	64.9	61.6	49.2	56.6
平成31年度	58.1	60.6	67.5	57.6	
自校					

- 小学校においては、国語と算数はともに目標値を上回った。
- 中学校においては、国語、数学及び英語のいずれも目標値に至らなかった。

※ 参考 県立中学校（3校）

	国語	数学	英語
令和4年度	78.2	86.1	74.9

3 各教科における課題

(**太字**は令和3年度に設定した重点課題)

		課 題	問題番号	平均正答率	
				県	自校
小 学 校	国語	条件に合わせて書く	③一(1)	30.4	
		文の構成を理解する	③二(1) (2)	51.0 50.0	
	算数	式に表したり式に表されている関係を考察したりする	③(3)①	22.9	
		目的に応じてデータを収集、分類整理し、結果を適切に表現する	④(3)①	29.5	
中 学 校	国語	複数の情報を整理し、条件に合わせて書く	③四	64.2	
		文章の内容を捉えて説明する	②四	5.1	
	数学	データの傾向を読み取り、批判的に考察し判断する	⑨(2)	25.9	
		問題解決の方法を数学的に説明する	⑥(2)	35.3	
	英語	適切な表現をする	⑨(1)	19.1	
		自分の考えを書く	⑩① ② ③	28.6 9.6 28.0	

3二(1)(2) 文の構成を理解する 重点課題

・文の中における主語と述語との関係や修飾と被修飾との関係を捉えることができるかどうかをみる問題です。

ニ 小森さんは、「本の一部」を読み返しながら、文の意味をもう一度たしかめています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(1) 次のウの文について、……部「大きく」はどの言葉をくわしくしていますか。ふさわしいものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

ウ つるの先は、大きく回転しながら、ままつく物をさがします。

1 つるの先は
2 回転しながら
3 ままつく物を
4 さがします

(2) 次のエの文について、……部「ままつくまます」の主語としてふさわしいものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

エ 上から見ると、アサガオのつるは、時計のはりとは反対まわりにままつくまます。

1 上から
2 つるは
3 はりとは
4 反対まわりに

<改善のポイント>

本問の正答率は、被修飾語：51.0%、主語：50.0%でした。一方、令和3年度と同趣旨問題における正答率は、主語：46.0%、述語：48.4%でした。改善傾向にありますが、依然として約半数の児童が理解できていない状況です。

主語と述語との関係や、修飾と被修飾との関係に気を付けて文を整えることは、自分の考えを正確に伝える上で重要であると、児童に気付かせることが大切です。その際は、単純な反復練習に留まらず、「書くこと」の学習における「推敲」の場面との関連を図ることで、指導の効果を高めることができます。

主語と述語の指導の際には、読み手に分かるように主語を適切に示したり、主語と述語のねじれがないかを確認したりすることができるようにします。また、修飾と被修飾の指導の際には、修飾語は直前や直後の語句を詳しくすると児童が捉えがちなため、離れた語句を修飾する場合があることを理解させることも必要です。

【読解力育成の視点：係り受け解析】

☆正答率 (%)

	3二(1)	3二(2)
県	51.0	50.0
市町		
自校		

<自身の授業改善のポイント>

小学校算数

3 (3) ①式に表したり式に表されている関係を考察したりする**重点課題**
 ・数量の関係を、図を用いて表現することができるかどうかをみる問題です。

3 だいすけさんの学級では、^{かんきょう}環境問題について学習し、自分たちにできる取組について考えています。

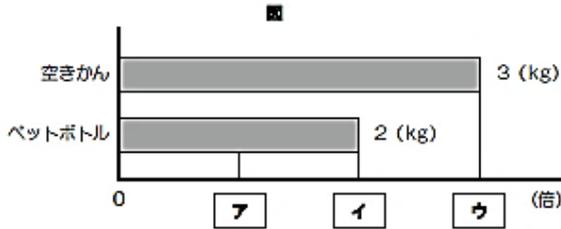
(3) だいすけさんたちは、集めたしげんごみを分別しました。分別した結果は、次のようになりました。

集めたしげんごみの分別結果

空きかん	3 kg
ペットボトル	2 kg

空きかんとペットボトルの重さの関係を図に表すと、下のようになります。

図の **ア** から **ウ** には、何倍かを表す数が入ります。



① ペットボトルの重さをもとにすると、空きかんの重さは何倍になるかを考えます。もとにする大きさを表す「1」は、上の図の **ア** から **ウ** のどこに書くとよいですか。1つ選んで、記号で答えましょう。(22.9%)

令和3年度県学力調査 同趣旨の問題

大問1

(2) 次に、お肉コーナーでぶた肉を買います。

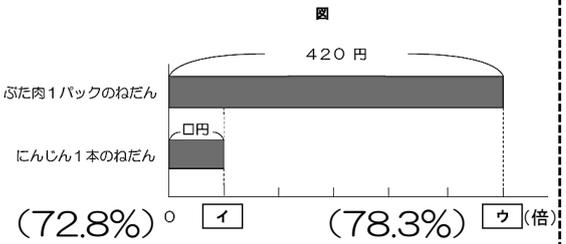


ぶた肉1パックのねだんは、420円だね。



ぶた肉1パックのねだんは、野菜コーナーで売っていた、にんじん1本のねだんの6倍だね。

① ぶた肉1パックと、にんじん1本のねだんの関係を図に表すと、下のようになります。図の **イ** と **ウ** に当てはまる数字を書きましょう。



<改善のポイント>

今年度の大問3 (3) ①の正答率は22.9%でした。一方、点線囲みで示した、同趣旨問題である令和3年度の大問1 (2)の正答率は、**イ**が72.8%、**ウ**が78.3%でした。

令和3年度は短答式の問題でしたが、今年度は選択式とし、児童が迷いやすい選択肢を設定したことが、正答率が低くなった要因の一つと考えられます。具体的には、もとにする大きさを表す「1」(1倍)にあたる選択肢**イ**に加えて、重さ「1kg」にあたる選択肢**ア**を設けたため、それらを混同したことが予想されます。

本問で扱った「小数を用いた倍」の内容は、学習指導要領の改訂に伴い改めて強調されました。指導にあたっては、基準量と比較量の関係を、図を用いて捉える場面を繰り返し設定しながら、「基準量を1としたときに比較量はいくつにあたるか」という「倍」の意味や、式を用いての「倍」の求め方を理解できるようにすることが大切です。

【読解力育成の視点：イメージ同定】

☆正答率 (%)

県	22.9
市町	
自校	

<自身の授業改善のポイント>

4 (3) ① 目的に応じてデータを収集、分類整理し、結果を適切に表現する
 ・アンケートで得られた結果を、二次元の表に分類整理することができる
 かどうかを見る問題です。

4 保健委員会のゆいさんたちは、けがの防止をよびかけるために、けがの様子について調べています。

(3) ゆいさんたちは、全校児童の161人に、「雨の日の室内（教室、ろう下、階段）での過ごし方」についてアンケートをとりました。
 その結果をまとめると、下のようになりました。

アンケートの結果

しつ問1「安全に気をつけてすごしていますか」
はい・・・149人
いいえ・・・12人
しつ問2「けがをした、またはけがをしそうになったことがありますか」
はい・・・94人
いいえ・・・67人

次に、アンケートの結果について、下の表に整理することにしました。

表 雨の日の室内（教室、ろう下、階段）での過ごし方 (人)

	けがをした、またはけがをしそうになったことがありますか		合計
	はい	いいえ	
安全に気をつけてすごしていますか	ア	イ	ウ
	エ	オ	カ
合計	キ	ク	161

① 12ページの「アンケートの結果」を見て、表の中のウにあてはまる数を書きましょう。

<改善のポイント>

大問3では、保健委員会の児童が、「けがを防止する」という目的をもって、統計的な問題解決を行う場面を設定しました。本問(3)①の正答率は29.5%であり、無答率は今回の調査で最も高い15.6%でした。

「データの活用」領域の学習では、「図書室でもっと本を借りてもらうにはどうしたらいいか」など、児童が自らデータを収集し、表やグラフを用いて整理し、解決策や効果的な改善策を考えることが大切です。

その際、主に低学年では、身近な題材（例えば、学級のみんなの好きな果物）に注目し、データを整理し特徴を捉える学習を行う、中学年では、問題解決のためにどのようなデータが必要なのか、また、どのように集めるのかについても徐々に扱っていく、高学年では、「自分たちで問題を設定して調査計画を立てる」「データを収集して表やグラフなどに整理する」「データの特徴や傾向から結論をまとめる」というプロセスを扱うなど、系統的に学習を発展させていく必要があります。

また、他教科の学習や生活の中でも統計的な問題解決は用いることができるため、様々な場面において生かそうとする態度を育てることも大切です。

【読解力育成の視点：イメージ同定、推論】

☆正答率 (%)

県	29.5
市町	
自校	

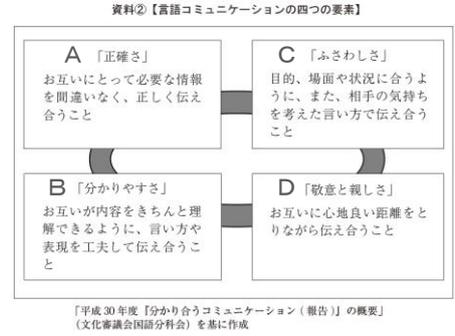
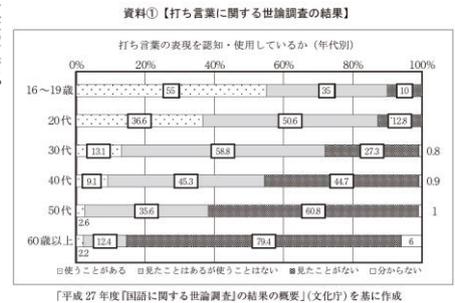
<自身の授業改善のポイント>

3四 複数の情報を整理し、条件に合わせて書く **重点課題**

- ・伝えたい事柄を踏まえて、自分の体験や知識などの適切な具体例を挙げ、自分の考えを書くことができるかどうかをみる問題です。

3

山口さんは、「言葉によるコミュニケーションにおいて大切なこと」について意見文を書いていきます。次は、山口さんが参考にした資料①・②と、山口さんが書いた「意見文の下書き」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。



【意見文の下書き】

テレビやインターネットなどで、「あけおめ(明けましておめでとう)」や「おこ(怒っている)」「それな(そだね)」のような言葉がたくさん使われている。このような言葉を「打ち言葉」というそうだ。携帯電話やパソコンなどで打った文字や文章のことである。現在は、日常生活の会話の中でもよく見聞きする表現だ。

資料①において、十六歳から十九歳では、「打ち言葉」を「使う」ことがある」と回答している人が五割を超えている。二十代では四割、三十代では一割程度にとどまっていることが分かった。このことから「打ち言葉」は、より若い世代に親しまれている表現方法であると言える。しかし、私は、言葉によるコミュニケーションを図るときには、資料②にある四つの要素の中でも、敬意と親しさのバランスをとること、伝える相手と自分との関係を重視することが最も大切だと考える。

私は、共感を表すときに打ち言葉の「それな」をよく用いていた。なぜなら、今の自分の気持ちや相手が一番分かってくれそうだと「I 思っていた。先日、私は部活動の先輩にSNSのグループの中で「それな」と返信した。すると後日、友達から「先輩にはちゃんと敬語を使った方がいいよ」と言われた。その時、何気なく使った「打ち言葉」は、目上の人である先輩を不快にさせる失礼な言葉だったかもしれないと気付かされた。親しい関係で、敬語を使うのは堅苦しいだろうと思っていたので、とてもショックだった。

今や私たちが千代の生活に「打ち言葉」は身近なものとなっている。時代が進むにつれて言葉は変化していき、これから「打ち言葉」以外にも、新たな「言葉」が増えていくと予想される。だからこそ、言葉を使うときは、相手を考えていかなければならないと思う。

II 言葉によるコミュニケーションを図るときは、互いに心地良い距離をとりながら伝え合うことが大切だと思う。これからは、言葉を受け取る相手との関係を心に留め、適切に敬語を使いながら、敬意と親しさのバランスをとっていききたい。

※SNS:ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略。

人と人との社会的なつながりを推進・促進する様々な機能を提供する、会員制のオンラインサービス。

四 線部II「言葉によるコミュニケーションを図る」について、次の問いに答えなさい。

山口さんは、資料②の「言語コミュニケーションの四つの要素」を参考にして、その中で「敬意と親しさ」が一番大切だと考え、意見文を書きました。あなたなら、どの要素を大切に「コミュニケーションを図りたい」と考えますか。AからDまでの中から1を選び、それを選んだ理由について、自分の体験や既知している知識を入れて具体的に書きなさい。

<改善のポイント>

令和3年度の全国学力・学習状況調査と同じ出題形式の問題です。令和3年度県学力調査の同趣旨問題と比較すると、正答率は23.8ポイント上昇しました。一方で、全く解答できなかった生徒の割合(無答率)は11.8%と、昨年度に比べて5.6ポイント増加しており、二極化の傾向が見られるため、継続課題と捉えています。

資料を基に自分の考えを記述するためには、生徒の実態に応じて、具体的な書き方のモデルを示したり、書き出しの語句やキーワードを指定したりすることが有効です。そして、「書くこと」に関する資質・能力が確実に育成できるよう、実際に文章を書く時間を授業の中で確保することが大切です。 【読解力育成の視点：推論】

☆正答率 (%)

県	64.2
市町	
自校	

<自身の授業改善のポイント>

2 四 文章の内容を捉えて説明する

- ・ 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を捉えることができるかどうかをみる問題です。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「げんは、中学一年生弟、碧郎」と両親の四人暮らしであるが、げんは、特病のある母の代わり、家族の世話を焼いている。碧郎は毎日、雨の中、傘を手にして学校に出かけ、ずぶ濡れになっただけでなく、母は洗われた裾若葉はほかにかきわらい、げんは昨日にひきかえて今日はいくかありそうに思えそうらしい。いよいよこのことになりそうなの。I がね、なんでもなんでもなく、天気がよくて空気がさわやかなら、それだけでも十分に、今日のいいことを期待するのである。「昨日あんたの備のところが返って笑ったわね、あれどういうわけなの？ 機嫌が直ったの知らせなの？」

「弟はちょっと変わった様で言う。『そうじゃないよ、姉さんがかわいそうだったんだよ。』」

「なぜって、とほはもてるみたいだからさ。」

「あら、あたしとほはほしていい？」

「うん、そう思ったんだけど、後ろ向いてみたら汽車みたいにこおっていった。『ちよこざいな』を言う碧郎である。汽車のようだったとは何事か。だいたい姉さんがかわいそうとか、とほはほしていいとか、よくも言えたものだ。とはいえるもの姉は弟を、弟は姉をよく理解していることが、これで証明されたにⅡはいいのである。げんはその日一日、学校にいて弟を思い出さなかった。けれど家へ帰って来てみると、父と母が先へ帰っていき、碧郎が留守を任せている。碧郎の学校から電話があった。碧郎が同級の子

う心は、なんとなく後ろめたく故意のみこんだようなところがあつた。故意というには、おかしきまどわす力がある。碧郎はおそらく教員室あるいは人けのない講堂の片隅などというところに留めておかれているのだらう。あるいはけがをした子の両親を駆けつけてきて、面罵したかもしれない、尋問されているかもしれない。それに、それうちの母はう碧郎をかばってやれているのだらうか。母もげんのように故意にまわされてはいないか。色白な皮膚、細い首、紺の制服をだぶだぶと着て見ると、さかさまにきやんなる人である。言いかされてはいないかという不安が感じられる。孤立している困難な立場を思、腹立ちっぽくて強情っぽりで、か細い神経なのだ。今朝並んで歩いて行った時「姉さんがかわいそうだった」と言ったことが、まよと熱く思い出される。

「お父さん、あなし心配だから、学校へ電話かけて様子聞きたいけど、いけないかしら？」

「まあもう少し待ってみよう。めんどうなことになるならお母さんからひと一言言ってみよう。長引くとかなんとか。」

犬が夕食を催促してげんのを、あつとついでに、人の心を見抜くという動物は首を寄せられ、と、じとすなおにいつまでも抱かれていて悲しい。

暮らして母はつたれ顔つきで、弟を連れて帰って来た。いつものなまらう仕事を切り上げて茶の間へ来ている父の、今日は机の前から立ち上り碧郎を待っていた。母はそのまま父のこのへ行つたが、碧郎は促されて父の前へ行くの無言で拒んだ。

「どうしたの？」

「ちよと目を上げて姉のほうを見、すうつと涙が目頭と目じりへ盛り上がってこぼれた。」

「知らねえや。」

四 線部②「瞬間をおかす悲しさが姉へ乗り移ってきた」とあるが、このとき碧郎はどんなことが悲しかったのか、説明しなさい。

（平成五年年度版）三書堂「現代国語」2 幸田文「おとと」にちよと

<改善のポイント>

登場人物の心情を読み取り、内容を捉えて書く問題です。今回の調査では正答率が5.1%と最も低く、無答率も30.5%と高い結果になりました。記述式で説明をする必要があったことや、姉に乗り移ってきた「悲しさ」は、「碧郎」の気持ちであることを捉えられなかったこと、さらにその後続く姉と「碧郎」の会話に注目できなかったことなどが理由として考えられます。

文学的な文章を読むためには、ただ単に、個々の場面や描写から分かることを把握するだけではなく、複数の場面を相互に結び付けて、内容の理解に役立てることが大切です。

授業では、単元の目標を実現するために適した言語活動を位置付けた上で、登場人物の性格や言動の特徴、他の登場人物との関係について、文章全体を踏まえて捉えられるように指導することが重要です。

【読解力育成の視点：推論】

☆正答率 (%)

県	5.1
市町	
自校	

<自身の授業改善のポイント>

9 (2) データの傾向を読み取り、批判的に考察し判断する **重点課題**

・資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題です。

9 春子さんの通う中学校の図書委員会では、図書の貸出冊数を調べ、読書週間に発行する図書室だよりの資料にしようと考えています。そこで、図書委員会の1年生委員長の健太さんと2年生委員長の春子さんは、1年生、2年生の4、5月の貸出冊数のデータを集めました。健太さんは、集めたデータについて、下の表にまとめました。

1年生(80人)の貸出冊数

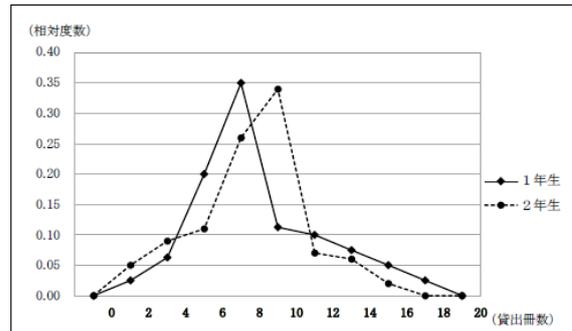
	平均値	中央値	最頻値	最大値	最小値
貸出冊数(冊)	7.6	7	7	16	1

2年生(100人)の貸出冊数

	平均値	中央値	最頻値	最大値	最小値
貸出冊数(冊)	7.2	7	9	15	0

(2) 春子さんは、1年生と2年生の人数の合計が違うことから、相対度数を用いて、貸出冊数の分布の傾向を比べようと考えました。そこで、1年生と2年生の貸出冊数の分布を、横軸を貸出冊数、縦軸を相対度数として度数分布多角形(度数折れ線)に表しました。

1年生、2年生の貸出冊数の度数分布多角形(度数折れ線)



(1) 健太さんが作った表から、貸出冊数について、正しく述べているものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア 1年生の80人のうち、貸出冊数が8冊の生徒がもっとも多い。
- イ 2年生の100人のうち、50人の貸出冊数は6冊以下である。
- ウ 貸出冊数の分布の範囲は、1年生、2年生ともに同じである。
- エ 貸出冊数の合計は、2年生より1年生の方が多い。

2人は、健太さんが作った表と春子さんが作った度数分布多角形(度数折れ線)について、話し合っています。

健太さん「貸出冊数の平均値は、2年生より1年生の方が高いね。だから、1年生は、2年生と比べて貸出冊数が多い傾向にあると言えるね。」
 春子さん「本当にそう言えるのかな。度数分布多角形(度数折れ線)を見ると1年生の方が2年生より貸出冊数が多い傾向にあるとは言えないんじゃないかな。」

春子さんが作った度数分布多角形(度数折れ線)を見ると、健太さんの考えは適切でないことがわかります。その理由を、春子さんが作った度数分布多角形(度数折れ線)の特徴をもとに説明しなさい。

<改善のポイント>

令和3年度の全国学力・学習状況調査における資料の活用領域の問題と同趣旨の問題です。令和3年度の平均正答率11.8%よりも高い結果となりましたが、本問題の無答率は29.2%であり、本県の生徒の3人に1人は、何を答えればよいのか分からない状況であり、継続課題と捉えています。

指導に当たっては、データに基づいて問題を解決する過程において、相対度数などの用語や代表値の意味を丁寧に確認した上で、データの分布の様子を読み取る場面を設定しましょう。その際、どの代表値が根拠としてふさわしいか、分布の形に注目しているか、分析した結果から得た結論が妥当かなどについて検討させ、批判的に考察し判断できるようにすることが大切です。【読解力育成の視点：具体例同定、推論】

☆正答率(%)

県	25.9
市町	
自校	

<自身の授業改善のポイント>

6 (2) 問題解決の方法を数学的に説明する

- ・事象の特徴を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を筋道を立てて説明することができるかどうかをみる問題です。

- 6 下の図1のように、自然数を1から順に4つずつ並べていきます。横に並んだ数を上から1段目の数、2段目の数、3段目の数、…とし、縦に並んだ数を左から1列目の数、2列目の数、3列目の数、…とします。例えば、4段目の2列目の数は14になります。このとき、次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

	1列目	2列目	3列目	4列目
1段目	1	2	3	4
2段目	5	6	7	8
3段目	9	10	11	12
4段目	13	14	15	16
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

- (1) 7段目の1列目の数を答えなさい。
- (2) 一郎さんと桜さんは、 n 段目の1列目の数の求め方を考えています。

	1列目	2列目	3列目	4列目
1段目	1	2	3	4
2段目	5	6	7	8
3段目	9	10	11	12
4段目	13	14	15	16
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
$(n-1)$ 段目				(イ)
n 段目				(ア)

↑
求める数

一郎さんは、図2の n 段目の4列目の(ア)に注目して、 n 段目の1列目の数の求め方を次のように考えました。

【一郎さんの考え】

4列目の数は、すべて $4 \times (\text{段の数})$ であるから、
(ア)は n 段目の4列目の数なので、 $4n$ と表せる。
また、 n 段目の1列目の数は、 n 段目の4列目の数より3小さい。
したがって、 n 段目の1列目の数は $4n-3$ で求められる。

一方、桜さんは、図2の $(n-1)$ 段目の4列目の(イ)に注目すると、「 n 段目の1列目の数は $4(n-1)+1$ で求められる」と考えました。
桜さんの考えの【説明】を完成させなさい。

【説明】

4列目の数は、すべて $4 \times (\text{段の数})$ であるから、

したがって、 n 段目の1列目の数は、 $4(n-1)+1$ で求められる。

☆正答率 (%)

県	35.3
市町	
自校	

<改善のポイント>

6(2)の問題は、先に示された n 段目の4列目の数に着目した求め方(一郎さんの考え)を振り返り、着目する数を変えた場合について説明する状況を設けました。正答率は35.3%に留まり、無答率は28.0%と高い結果になりました。

この問題のように、数に関する事象を考察する場面では、まず問題文と図を丁寧に対応させながら問題の条件を整理させた上で、成り立ちそうな事柄を予想し、予想を確かめ、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え説明できるようにすることが必要です。さらに、問題が解決したら終わりではなく、問題の条件を変えて考察しそれを振り返ることで共通の性質を見いだすなど、統合的・発展的に考察させることも大切です。

【読解力育成の視点：イメージ同定、推論】

<自身の授業改善のポイント>

9 (1) 適切な表現をする **重点課題**

- ・与えられた会話のやり取りの内容から推測し、自分の発言として適切な英文を書くことができるかどうかをみる問題です。

9 次の対話文の () に合う適当な英文を作成し、自然な会話を完成させなさい。それぞれ3語以上の英文にすること。

- (1) Tom : I practice soccer hard every day.
 You : () ?
 Tom : To be a soccer player in the future.
 You : That's nice. You can do it.

<改善のポイント>

本問は、空欄前後の「毎日サッカーを熱心に練習している。」「将来サッカー選手になるためである。」という文脈から、空欄には、サッカーの練習に励む目的・理由を尋ねる表現が適切であると判断し、英文を書く問題です。

文法事項としては、副詞的扱いとなる「To 不定詞～」の返答から「Why～？」の疑問文を導き出す問題です。to 不定詞は3つの用法があることから、苦手意識を抱える生徒が少なくありません。しかし、小学校外国語科において、「I want to go to ～。」や「I want to be ～。」という文を使用する場面が出てきたことから、生徒は名詞としての用法には慣れ、活用頻度が高い表現の一つとなっているでしょう。to 不定詞の他の用法についても同様に、コミュニケーションの中で幅広い表現に繰り返し触れ、別の場面や異なる表現の中で活用できるよう指導する必要があります。

なお、ここでは、生徒のつまずきが to 不定詞にあることを想定して改善のポイントを記載しましたが、他にも疑問詞で始まる疑問文や文脈から推測することにつまずきがある場合が考えられます。誤答を丁寧に分析し、課題に応じて、従来のパターンプラクティスや練習問題に取り組みさせることも大切です。

【読解力育成の視点：推論】

☆正答率 (%)

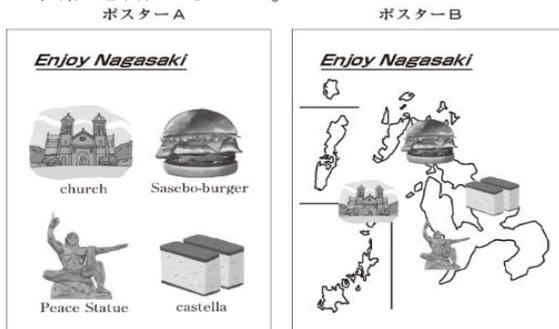
県	19.1
市町	
自校	

<自身の授業改善のポイント>

10 自分の考えを書く **重点課題**

・与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる問題です。

10 英語の授業で、外国人観光客 (foreign tourists) にとって分かりやすい長崎県PRポスターのデザインを話し合っています。あなたが話し合いに参加しているとして、**AとB**のどちらがよいか、自分の考えを理由とともに20語以上の英語で書きなさい。なお、解答の英文中にはポスターA (Poster A)、ポスターB (Poster B) でなく、AまたはBの表記を用いること。



	県の正答率		
H31 全学	1.2		
	①語彙	②文法	③構成
R3 県学	40.6	22.9	44.7
R4 県学	28.6	9.6	28.0

<改善のポイント>

本問は、令和元年度の全国学力・学習状況調査で県の正答率が1.2%と極めて低かったものと同趣旨の問題で、外国人観光客にとって分かりやすい長崎県PRポスターとして、どちらのデザインがよいか、自分の考えを理由とともに指定語数以上で書く問題です。

令和3年度の「自分の考えを書く」に関する問題では、留学先として行きたい国について、「I」を主語にして書き始めることが可能なため、正答率に伸びが見られました。一方、本問は、無生物主語を用いて書く必要があり、描写や説明などの言語活動に慣れ親しんでいない場合は、対応が難しい問題です。

そこで、授業では、生徒の興味に応じてテーマを設定したり、口頭で伝え合った後に書かせたりすることにより、「書くこと」に慣れ親しませることに加え、「I」や「You」だけでなく、3人称 (He, She, It, There, 無生物主語など) を用いて表現する場面を意図的に仕組み、客観的に事実を伝える力を養いましょう。

☆正答率 (%)

	①語彙の適切性	②文法の正確性	③構成
県	28.6	9.6	28.0
市町			
自校			

<自身の授業改善のポイント>

3 6つの問題分野（特に、「係り受け解析」「照応解決」「イメージ同定」「具体例同定」）を日頃の授業づくりの視点に加える。

6つの問題分野（6分野7項目）を日頃の授業づくりの視点に意識して加え、読解力の育成を図ることが大切です。

係り受け解析	<ul style="list-style-type: none"> 教師が意図的に主語や述語、目的語などを問う。 → P8（小国）
照 応 解 決	<ul style="list-style-type: none"> 「それ」「これ」などの、指示代名詞が示す言葉や内容について、線を引くなどして読み取らせ、全体で確認する。 → P8（小国）、P9（中社） 省略された主語や目的語を補うように指示する。
同 義 文 判 定	<ul style="list-style-type: none"> 複数の意見や考え方が同じかどうか、グループで話し合わせる。 → P8（小理）、P10（中理） 自分の意見や考え方がモデルと同じかどうか考えさせる。
推 論	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項等を根拠として新しい知識を獲得させたり、考察させたりする。 → P8（小理）、P10（中理） 文章中に書かれている内容等について、根拠を明確にして自分の考えを述べさせる。
イ メ ー ジ 同 定	<ul style="list-style-type: none"> 文章から読み取ったことを絵や図、表などを用いて整理させる。 → P7（小算）、P9（中社） 図や表、グラフから読み取ったことを、言葉や文章で表す活動に取り組ませる。 → P9（中数）
具 体 例 同 定	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の定義や意味を正しくおさえた上で、考えたり話し合ったりする活動に取り組ませる。 → P9（中数）、P10（中理） 様々な事例や自分の書いた文章が、定義に合っているか確認させる。

次ページから、6つの問題分野（6分野7項目）を視点に加えた授業実践事例を紹介します。



特別な取組を始めるのではなくて、普段の授業で使っている言葉を見直したり、これまでの手立てに読解力育成の視点を加えたりしていけばいいですね。

5 各教科の設問別正答率

<小学校国語>

大問	小問	設問の概要	出題の趣旨	正答率・誤答率・無答率(%)
1	一	【話し合いの様子】における――部アの中本さんの発言のよいところとして適切なものを選択する	相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら話す	70.7 28.3 1.0
	二	【話し合いの様子】における西原さんの発言【A】の――部「いいのかな」を話し合いの場にふさわしい言葉遣いに直す	相手や目的を意識して、丁寧な言葉を使う	72.5 26.2 1.2
	三	【話し合いの様子】における――部イの司会の発言の役割として適切なものを選択する	司会の役割について捉える	71.2 27.7 1.1
	四	【話し合いの様子】における佐野さんの聞き方の説明として適切なものを選択する	話し手が伝えたいことの中心を捉え、自分の考えをもつ	69.7 29.2 1.1
	五	「外野」をローマ字で書く	ローマ字で正しく書く	69.4 26.1 4.5
2	一	【文章の下書き】の【A】に、【田中さんの手紙】から分かったことを書く	考えを支える事例を書く	38.3 53.2 8.5
	二	【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する	書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考える	51.3 42.2 6.4
	三(1)ア	漢字を書く ア すすんで	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく書く、読む	84.2 12.9 2.9
	三(1)ウ	漢字を書く ウ とつげこう		67.4 27.6 5.0
	三(2)イ	漢字を読む イ 結果		89.0 8.8 2.2
	三(2)エ	漢字を読む エ 見守って		92.1 6.3 1.6
三(3)	【文章の下書き】の【B】の文を、――部と――部とのつながりに気を付けて書き直す	文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く		61.6 34.0 4.4
3	一(1)	【小森さんのノート】の【ア】に、疑問に思ったことの①に対する答えになるように考えて書く	目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する	30.4 56.5 13.1
	一(2)	【小森さんのノート】の【イ】に入る、疑問に思ったことの②に対する答えとして適切なものを選択する	段落相互の関係に着目しながら、結論とその理由との関係について、叙述を基に捉える	64.4 29.8 5.9
	二(1)	【本の一部】の中の――部ウで、――部「大きく」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する	文の中における修飾と被修飾との関係を捉える	51.0 42.8 6.1
	二(2)	【本の一部】の中の――部エで、――部「まきつきます」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を捉える	50.0 43.2 6.8

大問	小問	設問の概要	出題の趣旨	正答率・誤答率・無答率(%)
1	(1)	① ア 長さを分数で表すときに、基にしている長さを書く	分数の意味と表し方について理解している	78.6 19.7 1.7
		① イ 1mを7等分した1つ分のテープの長さを分数で書く		62.5 34.3 3.2
		① ウ 1mを7等分した6つ分のテープの長さを分数で書く		61.5 34.6 3.9
		② 色のついた部分のテープの長さを分数で書く		44.6 52.5 2.9
	(2) エ 10分の1Lは小数で表すと何Lであるのかを書く	分数と小数の関係について理解している	74.2 23.0 2.9	
2	(1)	長方形の面積を求めて書く	直角三角形を組み合わせてできた長方形について、面積を求めるために必要な数値を選び、答えを求めることができる	57.8 39.0 3.2
	(2)	長方形、ひし形、平行四辺形の3つの図形すべてにあてはまる性質として、正しいものを選ぶ	長方形、ひし形、平行四辺形の性質を理解している	59.5 38.0 2.5
	(3)	① 正三角形を1列に6個並べたときの周りの長さを書く	正三角形の個数と周りの長さの關係に着目し、図や表を用いて周りの長さを求めることができる	80.9 16.7 2.5
		② 1辺が1cmの正三角形を1列に並べたときの正三角形の個数と周りの長さの關係について、□と○を用いて表した式を書く	數量關係に着目し、□と○を用いて、その關係を式に表すことができる	44.5 48.1 7.4
3	(1)	二つのコースの道のりの差を求め、どちらがどれだけ長いかを書く	道のりの差を求めるために必要な数値を選び、答えを求めることができる	68.6 29.6 1.8
	(2)	午後1時50分に学校を出て午後3時10分に戻ったとき、かかった時間を書く	条件に合う時間を求めることができる	63.9 33.7 2.4
	(3)	① もとにする大きさを表す「1」は、図の中のどこに入るかを選ぶ	數量の關係を図を用いて表現することができる	22.9 72.6 4.5
		② 空き缶の重さはペットボトルの重さの何倍にあたるかを求める式について、正しいものを選ぶ	ある量の何倍かを表すのに小数を用いてよいことを理解している。また、倍の求め方について理解している。	64.2 33.1 2.8
	(4)	2kgは何gであるのかを書く	重さの単位について理解している	74.9 22.4 2.7
	(5)	横の長さが2.4mの布を3等分するときの計算の仕方を基に、横の長さが2.16mのひもを6等分するときの計算の仕方を書く	数を構成する単位に着目して小数÷整数の計算の仕方を記述できる	40.7 48.6 10.6
4	(1)	① 7月にけがをした人数を、棒グラフから読み取って書く	棒グラフから、數量を読み取ることができる	93.1 4.4 2.4
		② 月ごとのけがをした人数について、棒グラフから分かることを選ぶ	棒グラフから、項目間の關係を読み取ることができる	82.7 14.5 2.8
	(2)	棒グラフから、けがをした人数の差が一番大きい場所を選び、その場所と人数を書く	棒グラフで表された2つのデータを比較し、示された特徴をもった項目と、その人数を記述できる	58.6 28.8 12.6
	(3)	① 二次元の表の「ウ」にあてはまる数を書く	アンケートで得られた結果を、二次元の表に分類整理することができる	29.5 54.9 15.6
		② 「84」は二次元の表のどこに入るかを選ぶ		55.5 30.9 13.6

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等を見るために用いる知識及び技能を示している。

大問	小問	設問の概要	出題の趣旨	正答率・誤答率・無答率(%)	
1	(1)	適切な慣用句を選ぶ	文脈上の意味に注意し、適切な慣用句を選択する	83.2 16.7 0.1	
	(2)	話し合いの中における発言の意図を考える	相手の反応を踏まえて、わかりやすく伝える	60.4 39.5 0.2	
	二	発言が果たす役割を考える	話題や展開を的確に捉え、自分の考えを伝える	49.6 50.0 0.4	
	三	文脈に応じた発言内容を考える	話題や展開を的確に捉え、自分の考えを伝える	23.2 53.6 23.2	
	四	(1)	同じ意味の言葉に言い換える	文脈上の意味に注意し、別の適切な言葉に言い換える	82.2 17.4 0.4
		ア	話し合いの中から必要な情報を集める	文脈上の意味に注意し、適切な言葉を選択する	42.7 44.4 12.9
		イ	話し合いの中から必要な情報を集める	文脈上の意味に注意し、適切な言葉を選択する	55.3 32.7 12.0
2	一	場面の展開について考える	登場人物の心情の変化に沿って展開を把握する	37.8 53.0 9.2	
	二	I	漢字を書く(タネ)	文脈に即して漢字を正しく書く	88.9 4.7 6.4
		II	漢字を書く(ヒトしい)	文脈に即して漢字を正しく書く	84.0 9.4 6.6
		III	漢字を読む(留守)	文脈に即して漢字を正しく読む	91.3 7.1 1.6
	三	主語と述語の関係を捉える	文の中の語句の係り方を考える	32.2 66.6 1.2	
	四	その場面における登場人物の心情を捉える	心情の変化などを描写を基に捉える	5.1 64.3 30.5	
	五	内容を捉えて説明する	描写に注意して読み、内容を捉える	48.8 49.4 1.7	
	六	内容を捉えて本文から抜き出す	描写に注意して読み、内容を捉える	21.9 60.5 17.7	
	七	(1)	文章を読み、誰の心情が中心に描かれているか考える	描写に注意して読み、内容を捉える	54.4 38.1 7.5
		(2)	文章を読み、場面の良さについて考える	場面の良さについて、根拠を明確にして考える	32.9 64.2 2.9
3	一	適切な接続詞を選択する	文脈を捉え、接続語として適切なものを選ぶ	86.5 12.3 1.2	
	二	適切な叙述表現に書き直す	適切な叙述表現にする	40.0 53.1 6.9	
	三	段落の働きを捉えて選択する	文章の構成における段落の役割を捉える	54.8 42.1 3.1	
	四	根拠を示して書く	伝えたい事柄を踏まえて、適切な具体例を書き加える	64.2 24.0 11.8	

大問	小問	設問の概要	出題の趣旨	正答率・誤答率・無答率(%)
1	(1)	$20 - 8 \div (-4)$ を計算する	正の数と負の数の四則計算ができる	
	(2)	30 を素因数分解する	自然数を素数の積で表すことができる	
2	(1)	一元一次方程式 $2x = 1/5x + 9$ を解く	分数を含む一元一次方程式を解くことができる	
	(2)	一元一次方程式の解き方の間違いを指摘する	一元一次方程式を解く方法を理解している	
3	(1)	回転移動について正しく述べたものを選ぶ	回転移動の性質を理解している	
	(2)	①円柱の側面の横の長さを表す式を選ぶ	円柱の側面の横の長さを求めることができる	
		②円柱の表面積を求める	円柱の表面積を求めることができる	
4	(1)	正方形の1辺の長さや面積の関係を「…は…の関数である」という形で表現する	関数の意味を理解している	
	(2)	反比例のグラフから式を求める	反比例のグラフから、 x と y の関係を式に表すことができる	
5	(1)	ヒストグラムから22m以上投げた生徒の人数を求める	ヒストグラムからある階級の度数を求めることができる	
	(2)	26m以上30m未満の階級の相対度数を求める	ヒストグラムからある階級の相対度数を求めることができる	
6	(1)	自然数を4つずつ並べたときの、7段目の1列目の数を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	
	(2)	自然数を4つずつ並べたときの、 n 段目の1列目の数の求め方を説明する	与えられた説明を参考に、問題解決の方法を数学的に説明することができる	
7	(1)	線分ABの垂直二等分線の作図について正しい記述を選ぶ	垂直二等分線の作図の方法を理解している	
	(2)	$\angle ABC$ の2辺AB、BCに接する円の中心を求める作図の方法を説明する	条件を基に、問題解決の方法を数学的に説明することができる	
8	(1)	チラシ250枚の重さを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	
	(2)	チラシの枚数とチラシの重さの関係を明らかにする	問題解決に必要な事象における数量の間に成り立つ関係を明らかにすることができる	
9	(1)	図書の貸出冊数について調べたことから、正しい記述を選ぶ	平均値、中央値、最頻値、範囲の意味を理解している	
	(2)	「1年生が、2年生より貸出冊数が多い傾向にある」という考えが適切ではない理由を、度数分布多角形の特徴を基に説明する	データの特徴を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	

部	大問	小問	設問の概要	出題の趣旨	正答率・誤答率・無答率(%)
I部 (聞く)	1	No. 1	何をしているところかを正しく説明している英文を聞き取り選択する	ある状況や場面、事物を描写説明した単文レベルの英文を正しく聞き分ける	74.1 25.6 0.2
		No. 2	日にちと曜日を正しく説明している英文を聞き取り選択する		70.0 29.8 0.2
		No. 3	グラフについて正しく説明している英文を聞き取り選択する		89.8 10.1 0.2
	2	No. 1	親子の会話を聞き、質問に対する答えとして買って来る野菜を表す絵を選択する	自然な口調で話される日常的な話題についての対話を聞き、情報を正確に聞き取る	88.7 11.1 0.2
		No. 2	電話での会話を聞き、質問に対する答えとして健の母親のメモを表す絵を選択する		81.1 18.7 0.2
		No. 3	親子の会話を聞き、質問に対する答えとしてタブレットがある部屋を表す絵を選択する		68.0 31.8 0.2
	3	イベントの内容に関する情報を聞き取り、活動する順番に絵を並べ替える	まとまりのある英語(館内アナウンス)から、イベントの概要を聞き取る	52.6 47.2 0.2	
II部 (読む)	4	(1)	文脈から判断し、「コンピュータ」という意味の名詞computerを選択する	単文レベルの英文の中で文脈的なつながりを理解し、正しい文法や適切な語彙を用いた表現を判断する	87.7 12.2 0.2
		(2)	文脈から判断し、「どのように」という意味の疑問詞Howを選択する		58.0 41.8 0.2
	5	(1)	チラシに書かれた情報からカフェに何頭犬がいるかを読み取り、書き出しに続く語句を選択する	英語で書かれたチラシから、必要な情報を読み取る	90.6 9.2 0.2
		(2)	チラシに書かれた情報からエコバッグを入手する方法を読み取り、書き出しに続く語句を選択する		83.7 16.0 0.3
		(3)	与えられた複数の情報を整理して、カフェでできることを示す適切な英文を選択する		45.8 53.5 0.7
	6	環境問題についてまとめた発表原稿を読んで、発表の始めに話の流れを示すスライドとして適切なものを選択する	まとまりのある英語の説明文を読んで、概要を理解する	61.7 37.6 0.7	
	7	(1)	書き手の心情を読み取り、適切なものを選択する	まとまりのある英語の意見文を読んで、要点を理解する	58.7 40.5 0.8
		(2)	学校の校則の内容を読み取り、適切なものを選択する		24.9 74.1 1.0
		(3)	全体を読み、書き手が伝えたいことに最も近い内容を表す英文を選ぶ		61.7 37.5 0.8
	III部 (書く)	8	(1)	「カナダ出身である」というbe動詞の肯定文を正確に書く	与えられた情報に基づいて、適切な表現を用いて英文を正確に書く
(2)			「家で英語を話す」という3人称単数現在形の肯定文を正確に書く	31.9 61.4 6.6	
(3)			「毎日テニスをしない」という3人称単数現在形の否定文を正確に書く	39.0 55.0 6.0	
9		(1)	文脈から判断し、毎日サッカーを一生懸命に練習する目的を尋ねる疑問文を単文で書く	与えられた会話のやり取りの内容から推測し、自分の発言として適切な英文を書く	19.1 58.5 22.4
		(2)	文脈から判断し、新しいかばんを買いたいという肯定文を単文で書く		22.1 48.1 29.8
		(3)	文脈から判断し、写真を見せてくれるかと尋ねる疑問文を単文で書く		23.5 49.1 27.3
10		①	与えられた状況で、長崎のPRポスターとして、2つのうちどちらがよいかという考えとその理由について英文で書く	与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書く	28.6 49.3 22.1
		②			9.6 68.1 22.3
		③			28.0 49.6 22.5

6 各市町の状況

(県平均正答率以上の場合「+」表示)

校種	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
長崎市	+	+	+		+
佐世保市	+	+			
島原市	+	+		+	
諫早市					
大村市			+		
平戸市					
松浦市					
対馬市					
壱岐市	+	+			
五島市					+
西海市					
雲仙市	+	+	+	+	+
南島原市				+	
長与町	+	+	+	+	+
時津町	+	+	+	+	+
東彼杵町		+	+		+
川棚町					
波佐見町		+	+	+	+
小値賀町		+	+	+	
佐々町	+	+	+	+	
新上五島町				+	